

2018年6月25日

第16期定時株主総会 質疑応答要旨

第16期定時株主総会におきましては、ご多忙の中、多数のご来場を頂きまして、誠にありがとうございました。

質疑応答の時間には、株主の皆さまから、たくさんのご意見・ご質問を頂戴しました。

ここでは、その要旨を掲載しております。

開催日時： 2018年6月22日(金) 10:00~12:21

所要時間： 2時間21分

開催場所： 東京国際フォーラム ホールA

来場株主数： 2,246名

1	
質問	株価向上に向けた取り組みについて
回答	<p>One MIZUHO 戦略に加え、2017年11月に発表した抜本的構造改革を進めるなかで、基礎的収益力、稼ぐ力を着実に高めていき、企業業績、企業価値の向上に努めていくことが最終的には株価にとってプラスに効いてくると、考えている。</p> <p>また、株主、投資家の皆様に対しても、戦略等をしっかりとご理解いただけるよう、対話に努めていく方針。</p>

2	
質問	株主還元の強化に対する考え方について
回答	<p>当社の資本政策は、安定的な自己資本の充実と着実な株主還元の最適なバランスをとることが基本方針。そうした中で、株主還元は、連結配当性向30%程度を1つの目処とした上で安定的な配当を図るという考え方に基づき決定している。</p> <p>当社の自己資本水準は、昨年12月に国際的な合意が為されたバーゼル規制強化の影響を加味すると、引き続き資本の充実が必要な状況。</p> <p>経営陣としては、収益力を高め、現状の資本蓄積を要するというステージから一日も早く、資本の活用、株主還元の強化というステージに到達するべく、最大限取り組んでいく所存。</p>

3	
質問	連結子会社の収益力や管理における弱点の改善について
回答	<p>マイナス金利という厳しい環境下において、経費の柔軟なコントロールには課題がある。改善策として、抜本的構造改革の取り組みの中で、足腰を強くし、基礎的収益力を高めていく。銀行、信託、証券、アセットマネジメント各社はそれぞれ相応の実績は挙げており、これをグループ横断でよりスピーディにサービスを提供し、お客さまのお役に立てるように強化していく。</p> <p>また、テクノロジーの進化などの環境変化を踏まえ、お客さまのニーズにより高い次元でお応えしていくため、事業ポートフォリオの見直しについても検討を進めていく。</p>

4	
質問	グループ CEO 選考にあたっての指名委員会の考え方について
回答	<p>後継者の指名は指名委員会の一番大きな役割のひとつと考えており、当社が指名委員会等設置会社に移行した 2014 年から、検討を進めてきた。指名委員会は全員社外取締役で構成しており、検討に当たっては、経営環境を含め、内部の意見を尊重しつつ、候補者と様々な形式で面接を行い、人格、識見を調査するほか、第三者機関や社内の 360 度評価も活用した。</p> <p>今後、大きな変革を進めていく中で、従来の銀行業務に加えて、銀行業務を証券の力で変えていく分野も相当出てくることも含め、総合的に判断して、坂井氏が次期グループ CEO に相応しいという判定をした。</p>

5	
質問	社外取締役または取締役会の機能発揮状況の実態について
回答	<p>この 4 年間、社内と社外取締役が一体となってガバナンス改革に取り組んできた。取締役会では、社外取締役も軋轢を恐れず納得がいくまで経営陣と議論を実施しており、決して経営陣に任せっきりということはない。</p> <p>&lt;みずほ&gt; は確実に変わりつつあるが、業績を上げてこそそのガバナンス改革であるということを肝に銘じており、一段と気を引き締めている。&lt;みずほ&gt; の顧客基盤の厚み、人材等の「潜在力」を収益力に結びつけるべく、様々な角度から議論を実施しており、その結果として、事業の選択と集中、店舗改革、人事運営の改革等の取り組みを実施している。社外取締役は、これからも社内取締役と目標を共有して、全力を尽くしていく。</p>

6	
質問	テクノロジー分野における差別化戦略について
回答	<p>デジタルイノベーションについては、①新しいテクノロジー、外部の知見を活用して、お客さまの利便性向上につなげること、②社会の利益、公益に寄与すること、③ &lt;みずほ&gt; の収益向上につなげること、の 3 点に留意して取り組みを進めている。</p> <p>また、2017 年 6 月には、「Blue Lab」という新しいビジネスモデルを創造する会社を設立。金融に限らず、小売、農業、旅行に加え、新しい次世代のビジネスモデルを創っていく。&lt;みずほ&gt; の出資比率は 15% 未満に抑え、銀行員らしくない自由な発想で、ビジネスモデルの開発に取り組んでいる。</p> <p>今後も、企業や業界の枠組みを超えた取り組みを推進して、必ずや株主の皆さま、お客さまの期待に応えられるような新しいテクノロジーを生み出して、みずほの収益に貢献できるように推進していく所存。</p>

7	
質問	仮想通貨に対する <みずほ> の考えおよび電子マネーに関する取り組みについて
回答	<p>仮想通貨は高いポテンシャルはあるが、今後次世代の通貨としてさらに発展するためには、システム面でのセキュリティ強化や政策当局による体制整備が必要。&lt;みずほ&gt; としては、仮想通貨について、専門チームを立ち上げて研究中。</p>

	<p>〈みずほ〉が検討している銀行系デジタルコインは、預金の裏打ちがあるコインで、1円イコール1コインで兌換可能なデジタルマネー。</p> <p>裏側の仕組みはブロックチェーンではなく、いわゆる従来型システムであるサーバー型の仕組みを想定。システム的には一長一短があると考えており、今後も技術動向を注視していく所存。</p>
--	--

8	
質問	マイナス金利の影響について
回答	<p>マイナス金利については一定の効果が出てきているものと考えている。一方、その副作用についても意識していかなければならない状況でもあり、関係の皆さまとは意見交換を進めている。</p> <p>但し、現状下では、マイナス金利を前提とした経営を行う必要があり、マイナス金利の中でいかに運用力を高めていくかが重要。〈みずほ〉ではA I等の活用による予測能力向上や分散を効かせた運用方法の高度化等に取り組んでいる。</p> <p>〈みずほ〉の財務に対する影響については、預金と貸し出しの利回り差である資金利益に対しては下押し影響があり、引き続き厳しい状況が続いていくという認識。</p> <p>マイナス金利であるがゆえのビジネスチャンスを逃さず捉え、従来から進めている非金利収益の増強を図ることにより、マイナス金利のマイナス影響を確りと打ち返していきたいと考えている。</p>

9	
質問	特定分野における融資方針において、特定分野（石炭火力、パーム油等）向け融資の情報開示方針、森林減少への取り組みについて
回答	<p>〈みずほ〉では、2018年6月に、責任ある投融資の管理態勢強化について発表しており、これに基づき、傘下の銀行、信託銀行、それから証券会社等に、対応整備を指示しており、その対応は完了している。それぞれのお取引の内容、地域、各ステークホルダーの皆さまとの対応も重視しつつ、責任ある投融資への取り組みが、社会の常識と期待に沿うものになるように努めていく。</p> <p>情報開示については、社会からの要請、環境等を踏まえ、どのようなセクターについて開示していくかなど、しっかりと対応を進めていく所存。</p> <p>また、森林減少への取り組みについては、例えば、F S C・P E F C等の国際認証制度があり、お客さまとお取引をする上では、こういった認証制度をしっかりと確認していくということなどが必要と考えている。</p>

10	
質問	次期システムの顧客メリットについて
回答	<p>次期システムは、昨今話題になっている新しい技術の活用も視野に入った設計。そこから生まれるサービスは古いシステムよりもはるかに速く、適切な対応が可能であり、お客さまに対するメリットであると考えている。また、過去のシステム障害の反省を踏まえ、より障害に強いシステムを作り上げている。このようなシステムを確りと移行し、</p>

	稼働させて参りたい。
--	------------

11	
質問	金融の姿が変わっていく中での、人材の採用や育成の考え方・方針について
回答	<p>〈みずほ〉では、全ての社員が絶えず成長しながら能力を100%発揮し活躍することを人事の目指す姿として掲げ、人事運営の抜本的な改革に取り組んでいる。一人ひとりの強みを伸ばす育成型人事や多様なキャリア観に応じた複線型人事等、「個」を尊重した人事運営に注力しているほか、女性や外国人社員も含めた様々な社員の活躍に向け、ダイバーシティ&amp;インクルージョンの取組みを推進している。</p> <p>採用についても、テクノロジーが進化し我々を取り巻く環境が大きく変わっていく中で、変化に対応し、新たなビジネスを切り拓く多様な人材を確りと確保していくことが重要と考えている。</p> <p>こうした取組みを通じ、人材の面から〈みずほ〉の競争優位性を確立し、企業価値を高めていきたいと考えている。</p>

以上